

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 09020020

政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	2	林業の振興	事業優先度	A		
単位施策	1	生産体制の強化	政策事務分類	2	単独自治事務(個別計画)	
事業名	未来につなぐ森づくり推進事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	9	産業振興課	
事業主体	雄武町森林組合		関係課	#N/A		
事業指標	無立木地等での造林施業の推進		関係課	#N/A		
事業目標	造林面積 310ha		ハード/ソフト 事業区分	1	ハード事業	
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働			関係個別計画名	有 森林施業計画		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	人工造林 310ha	人工造林 60ha	人工造林 60ha	人工造林 60ha	人工造林 60ha	人工造林 70ha
	事業費(千円)	50,207	9,880	9,880	9,880	10,687
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	30,896	6,080	6,080	6,080	6,576
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	19,311	3,800	3,800	3,800	4,111	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	48,233	8,081	9,621	8,503	11,106
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	29,680	4,972	5,921	5,232	6,834
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	18,553	3,109	3,700	3,271	4,272	
関 連 事 項	特定財源の名称 未来につなぐ森づくり推進 事業補助金	【評価・実績】	(実施内容等) 人工造林 38.51ha  ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) 人工造林 53.20ha  ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) 人工造林 55.69ha  ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) 人工造林 76.33ha  ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	人工造林 60ha	人工造林 60ha	人工造林 60ha	人工造林 70ha
	年度達成率	82%	97%	86%	111%	104%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	16%	35%	52%	74%
	備考欄					

事業名	未来につなぐ森づくり推進事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	渡部 憲一

様式1  
平成29年度実施  
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	森林所有者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	造林面積	
【抱える課題やニーズは】	地球温暖化防止への貢献や国土保全機能の向上	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させる森林施業の実施	① 造林実施面積÷造林計画面積	目標年度	平成29年度
			目標値	70.00 ha
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	北海道らしい豊かな「ふるさとの山」の創造	②	実績値	75.05 ha
			達成度	107.2 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	補助金の交付	森林環境保全整備事業実施要領に基づき補助対象とされた造林事業のうち、雄武町森林組合が受託受任して行った造林事業に対して補助した。町が造林事業費の26%を補助し、北海道から町へ造林事業費の16%が補助された。	目標年度	平成29年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	#DIV/0! %

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	森林所有者の森林施業に対する意欲の維持と未立木地や伐採跡地の解消を図るべく、適切な森林の更新と木材資源の循環を促進し、北海道らしい豊かな山づくりを推進する必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	地域林業の振興や森林資源内容の充実と生産力の増強が図られ、森林の持つ多面的機能の高度発揮に寄与し、実施面積も目標を上回ることができ、今後も目標を維持できるよう森林所有者への働きかけを行う。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が見られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	本事業の適用となる町の負担割合は、未来につなぐ森づくり推進事業実施要領で定められており、町が事業の基準を満たせるよう補助した結果、北海道から補助を受けることができた。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

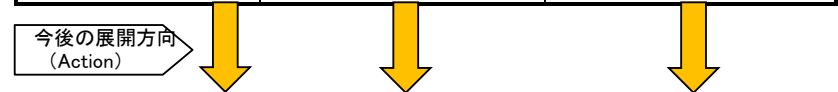
公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	対象となる事業を実施した森林所有者を対象としており、森林所有者も事業費の一部を負担している。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
森林所有者の負担軽減を図るとともに森林施業を促進し、多面的機能を持つ森林を育成する事業であることから、目標を維持できるよう森林所有者へ働きかけを行い、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持		
森林施業が推進されることで、本町の林業生産力の向上に繋がるとともに、環境の保全が図られることから、継続して実施すべき事業であり、現状維持が適当である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止